

## 生きものいっせい調査について【指導用資料】

沖縄の島々は、生物多様性が高いとても豊かな島です。ところが最近、もともといた生きもの(在来種)が見られなくなり、よそから来た生きもの(外来種)が目につきます。在来種は本当にいなくなったのでしょうか？ 外来種はどこまで広がっているのでしょうか？ こんな、身近な自然の変化をみなさんに調べてもらおう！というのが「生きものいっせい調査」です。昔、アオカナヘビは、沖縄島では家の近くで見つかる身近な生き物でしたが、最近では減っているといわれています。こうした生き物が今どうなっているのかを広い範囲で知ることで、身近な自然の変化について新しい発見があるかもしれません。今回のアンケートをお願いする生き物について、見分け方や特徴をまとめました。子どもたちから生き物について聞かれた場合の参考にしてください。

### <ことばの解説>

- ・在来種： その地域や島に、もともといる生物種。
- ・外来種： よそから新しく入ってきた生物種。
- ・固有種： 世界で、その地域や島にしかいない生物種。
- ・絶滅危惧種： 数を減らして、存続が危ぶまれる生物種。地域ごとには都道府県が、日本全体では国(環境省)が指定。絶滅の恐れの高い順に、絶滅危惧 IA 類、IB 類、II 類、準絶滅危惧種がある。
- ・亜種： もともと同じ種類の生物が、地理的に隔離されて遺伝的に分化しつつある生物種。別種同士はふつう交配できないが、亜種同士は交配が可能。
- ・特定外来生物： 「外来生物法」により指定された外来種。外来種のうち、特に生態系や人の体、農林水産業に被害を及ぼす、あるいは及ぼす恐れのあるもの。輸入、飼育、栽培、保管、運搬が原則禁止。
- ・世界/日本の侵略的外来種ワースト 100： 侵略的外来種の中でも、特に生態系や人間活動への影響が大きいもの。世界では IUCN(国際自然保護連合)が、日本では日本生態学会が定めた。

## 1. アオカナヘビ類

**方言名：** ジューミー、アンダチュー、マースケーなど

**概要：** 沖縄県内に3種類いる。アオカナヘビはトカラ列島、奄美大島、沖縄諸島に、ミヤコカナヘビ

(国の絶滅危惧 IA 類)は宮古諸島に、サキシマカナヘビ(国の絶滅危惧 II 類)は八重山諸島に分布し、いずれも固有種。アオカナヘビのオスは茶色っぽい緑色で、体の横はこげ茶色。メスと子どもは全身緑色。体の横に白線が入る個体が多い。ミヤコカナヘビとサキシマカナヘビには白線がなく、雌雄ともに緑色。アオカナヘビは約 25cm、ミヤコカナヘビは約 20cm、サキシマカナヘビは約 30cm。3種ともしっぽが長く、しっぽを押さえるとすぐに根元から切れてしまう。切れたしっぽはしばらく動くので、アオカナヘビ類の捕食者はそっちに気を取られてしまい、本体はその間に逃げてしまう。

**食べ物：** 昆虫やくモなど。

**生息環境：** 森の林縁や畑、草地、屋敷地などの、樹の葉の上や、草やつるの上など。御嶽(うたき)。

**似ている生き物：** キノボリトカゲ類、グリーンアノール。

## 2. キノボリトカゲ類

**方言名：** アタク、アーナー、アササー、クエー、アハカーなど

**概要：** 沖縄県内に亜種が3種類いる。オキナワキノボリトカゲ(国の絶滅危惧 II 類)は奄美諸島と沖縄諸島に、サキシマキノボリトカゲ(国の準絶滅危惧種)は宮古諸島と八重山諸島に、ヨナグニキノボリトカゲ(国の絶滅危惧 II 類)は与那国島に分布し、いずれも固有亜種。体長 16～25cm。手足やしっぽは細長く、体表はザラザラしている。オキナワキノボリトカゲのオスは緑、メスはくすんだ緑で、子どもは茶色。サキシマキノボリトカゲとヨナグニキノボリトカゲは、個体により色の違いが大きい。いずれの種も、しっぽは

緑と茶色のしましま。周囲に合わせて、体色を変化させる。アオカナヘビよりも顔が角張っていて、頭や背中の中はうろこはギザギザ。オス同士がケンカをするときは、腕立て伏せのような動きをする。木の幹をらせん状に登って逃げる習性がある。

**食べ物:** 昆虫やクモなど。

**生息環境:** 下草のない自然林や、林縁部や人家付近の人工林など、開けた場所。樹上性。

**似ている生き物:** アオカナヘビ類、グリーンアノール。

### 3. グリーンアノール

**方言名:** 特になし

**概要:** 北アメリカ原産の外来種で、日本では小笠原諸島と沖縄諸島に移入。特定外来生物で、日本の侵略的外来種ワースト 100。体長 12~20cm。背中はあざやかな緑色の個体が多いが、茶色い個体もいる。周囲に合わせて、体色を変化させる。あごの下やおなかは白い。目の周りは、アイシャドウを塗ったように青い。オスは、のどにピンクののど袋がある。目が良く、数m離れた所の虫も見つけて捕まえて食べる。

**食べ物:** 昆虫や小型のは虫類など。

**生息環境:** 樹上性。林縁部や民家の庭木、低木林、畑の周辺など。日中は日当たりのいい場所で日光にあたり、夜間には樹木の枝や葉の隙間などで休息する。

**似ている生き物:** アオカナヘビ類、キノボリカゲ類。

### 4. ファイリマンゲース

**方言名:** 特になし

**概要:** 中国南部~インド~イラ分布。奄美大島と沖縄島に人為的に持ち込まれた外来種。特定外来生物で、世界&日本の侵略的外来種ワースト 100。国内に持ち込まれた種類が従来はジャワマンゲースとされていたが、最近の研究でファイリマンゲースであることが分かった。頭から胴体は25~37cm、尾は19~29cm。体は細長く、手足は短く動きがすばやい。毛は黒褐色から黄土色。県内では沖縄島にハブ退治のために放されたが、ハブを食べることはほとんどなく、ヤンバルクイナなどの希少な生きも

のを食べてしまう。

**食べ物:** 昆虫、小動物、鳥、果物。

**生息環境:** 森林、低木林、耕作地周辺など。たいていは身を隠しているが、さっと道路を横切ったりするのを見かけることがある。

**似ている生き物:** ニホンイタチ(外来種。毛は赤茶色でマングースより大きい。沖縄島ではほとんど見られず、伊良部島などの離島には多い)。

### 5. モミジバヒルガオ

**方言名:** 特になし

**概要:** 北アフリカ原産で東南アジアまで分布する外来種。別名台湾アサガオ、モミジヒルガオ。園芸植物として日本に入っており、沖縄では野生化。つる性の植物で、フェンスや樹木に絡みつき、覆い隠すように葉が茂る。地面では地を這うように広がる。日本の多くの地域では夏だけ花が咲くが、沖縄では一年中咲いている。薄紫色の花は、ゲンバイヒルガオやノアサガオに似る。葉の形が特徴的で、モミジの葉のように5~7つに裂けているため、モミジバヒルガオと呼ばれる。葉の裂け目はモミジよりも深く、それぞれが1枚の葉のように見える。

**生息環境:** 林縁や空き地など。

**似ている生き物:** ノアサガオ、ゲンバイヒルガオ。

### 6. イノヒヨドリ

**方言名:** イシスーサー、イシズーサー、イシジューサーなど

**概要:** アフリカ、アジア、日本に分布。名前はヒヨドリだが、ヒヨドリ科ではなくヒタキ科。全長23.5cm。オスの成鳥は胸や背面が青色で、腹部は赤茶色。メスは全体がこげ茶色で、腹側にウロコ状の白い模様がある。見晴らしのいい高いところでさえざる習性がある。ヒヨ チー チヨ チビ、チヨ チー ピイ ピピ ピイ チュウなど、雌雄ともにさえざる。海岸の岩場をすみかにしていたが、コンクリートの建物が増えたため、街の中にも生活域を広げた。

**食べ物:** 昆虫、甲殻類、トカゲなど。

**生息環境:** 海岸などの岩場や、市街地。岩の上、枝の

上、家の上や手すり、地面など、いろいろなところにいる。

似ている生き物： 特になし。

生息環境： 公園や平地の木の幹。

似ている生き物： ヤエヤマクマゼミ、その他のセミ類。

## 7. ナナホシテントウ

方言名： カーミーグワー、マヤーグワー、ナナフシグワー、ジュリグワームシ、ジュリグワーホー、タナバルクエークエ、タマスガマ、テントウリシャガマ、グスーマヤグワ(ナナフシグワー、ジュリグワームシ以外はテントウムシの総称と思われる。カメムシもカーミーグワーと呼ばれる。)

概要： ヨーロッパ～アジア、日本に広く分布 頭は黒く、羽には赤地に7つの黒丸(七星)模様がある。触ると、黄色くて臭い汁を出す。この汁で鳥などの敵から身を守っていて、派手な模様は「食べたら後悔するぞ」という目印。ダンダラテントウやナミテントウは、個体によってさまざまな模様があって、色がよく似ているが、ナナホシテントウのようにはっきりした7星にはならない。沖縄はテントウムシの種類が多いが、それぞれの分布はよく分かっていない。トカラ列島以南のナナホシテントウは、黒丸が小さいといわれている。

食べ物： アブラムシ。

生息環境： 畑や公園、道ばたなどの、草の生えているところ。

似ている生き物： ダンダラテントウ、ナミテントウなど。

## 8. クマゼミ

方言名： サンサナー、アササー、クガナー、サンサンなど

概要： 西日本以南に分布。体が黒く、羽が透明の、大型のセミ。シャンシャンシャンと鳴く。7月中旬に盛んに鳴き、8月中旬には見られなくなる。センダンやホルトノキを好み、群れてとまっている。クマゼミは午前中に鳴き、アブラゼミは午後には鳴くことで、鳴く時間を分けているらしい。2種類ともいる地域の子供も達は、確かめてみてほしい。石垣島と西表島のクマゼミには、発生時期に1ヶ月のズレがある。また石垣島と西表島には、山地の森林に生息するヤエヤマクマゼミ(固有種)がいて、平地のクマゼミとはすみわけている。ヤエヤマクマゼミの鳴き声はミンミンゼミに似て、ミーンミーンミーンと鳴く。

食べ物： 樹液。